



菜の花(春)



向日葵(夏)



稲穂(秋)

## 農学部附属フロンティア農学教育研究センター

### グリーンバイオマス研究プロジェクト

#### [公開セミナー]

2011年9月20日(火) 午後5時00分～6時00分

新2号館1階多目的講義室(2N-103)

講師: 主任研究官 野中 章久

(独)農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター

#### セミナープログラム

午後4時45分 開場

5時00分 開始

5時00分～5時50分 野中氏講演

『バイオマスを視野に入れた国産ナタネ生産の現状と展望』

食糧としての国産ナタネ拡大施策の解明を基調としながら、バイオディーゼルをはじめとする燃料の地域内生産を視野に入れたナタネ・バイオマス振興のための研究の現状と展望の紹介。

5時50分～6時00分 質疑応答

6時00分 終了

学科や専攻に関係なく学生・教職員の参加をお待ちしています。

連絡先: 生物生産学科 山崎亮一(内線 5864)

+

講演内容:

過去の国産ナタネと現状,新しい動き(食用油生産局面)を紹介し,バイオディーゼルとの関わりの現状と可能性を紹介し(燃料局面 - ただし現状では上手く連結していない),最後に食用ナタネ生産と燃料生産が統合する可能性の紹介として東北農研の技術開発研究を紹介する.

1. 国産ナタネ生産の歴史と現状
2. 地域的なナタネ生産の取り組み事例
3. バイオディーゼルの特徴

アルカリ触媒法の小規模プラントが一般的

東北では障害者授産施設での取り組みが多い

小間切れの作業なので,他の事業との兼営の方が合理的

4. 燃料化の経済性評価

野中章久「農家自給型BDFの可能性」『農業と経済』vol.73 No.2 を簡潔に紹介

コストの試算では,通常では燃料化は無理

ただし,油かすが商品化されれば可能性は生じる

+

食用油搾油では廃棄分の油がある

技術開発によって,未利用の部分からも搾油・燃料化が可能

5. 技術的な可能性

選別時のゴミから搾油することが可能(ベストの時に総収穫量の2%程度の熱量)

穂発芽粒を選別する技術開発 開発されれば,食用ナタネの品質が向上すると同時に穂発芽粒を燃料に向けられる(穂発芽は収穫量の20%に達することも).

+

企画: フロンティア農学教育研究センター

グリーンバイオマス研究プロジェクト